



キューバ・フォーラム▶国際研究会	2
環境に優しい蓄電池、街路灯販売▶会員紹介	3
物流主軸に社会貢献と事業の両立▶会員紹介	3

# インド研究会 大使と共催で開催予定

民間外交推進協会（FEC）の松澤建理事長は1月27日、シビ・ジョージ駐日インド大使夫妻からナショナルデー・レセプションに招待された。

FECとインド大使館は長年、親密で良好な関係を維持しており、両国の経済関係のさらなる発展のために今年もインド大使と共催でインド研究会（ビジネスフォーラム）を開催予定である。

インド・ナショナルデー・レセプションにてシビ・ジョージ駐日大使夫妻（右）と松澤理事長



## 「人間関係構築で心の距離縮めたい」

### 第286回国際研究会 ルクムエナ・センダ駐日コンゴ民主共和国大使

民間外交推進協会（FEC）は1月24日、第286回国際研究会（コンゴ民主共和国文化フォーラム）をコンゴ民主共和国大使公邸で開催した。はじめに松澤理事長が開会挨拶を行い、続いてルクムエナ・センダ駐日コンゴ民主共和国大使が歓迎挨拶とコンゴ民主共和国の文化に関するプレゼンテーションを映像と交えながら行った。その後、参加者からコンゴ民主共和国に関する多くの質問が寄せられ、コンゴ民主共和国への関心の高さがうかがわれた。最後に大使館のご厚意によりご準備いただいた料理が振る舞われ、参加者と大使館関係者との交流を深めた。

#### 【挨拶およびプレゼンテーション】

本日は大使公邸にお越しいただき、心より感謝申し上げます。皆様、遠方より足を運んでくださったが、ここで言う「遠さ」とは物理的な距離ではなく、「行きたい」という想いが込められた心の距離だと感じている。

物理的な距離は時に克服が難しい。例えば、日本からコンゴ民主共和国への移動にはどうしても24時間以上かかる。しかし、人間関係によってこの距離を縮めることができる。会話を交わしたり、直接会えなくても相手を思うことで、心の距離を縮めることが可能である。FAX



やインターネット、AIの登場によって物理的な距離が縮まったように感じるが、機械には感情がない。感じることができるのは人間だけだ。

初めて来日し、京都を訪れた際、町屋を見て感動した。それは、来日する前に写真で見た長屋と同じ景色だったからである。町屋には障子を通した影とガラスを通した影があり、その光と影、天井の高さや奥行きバランスに驚きを覚えた。その瞬間、「日本に来る価値があった」と強く感じたことを覚えている。

コンゴと日本には、宗教的な共通点がある。コンゴにも日本にも、街の中や海、木などに多くの神様が宿っていると考えられている。以前、大阪を訪れた際、道の真ん中に大きな木があった。建築家として「これは邪魔だ」と思ったが、住民に尋ねると、「この木には神様

がいるから切らない」とのことだった。その話を聞き、コンゴで建物を設計する際、神様が宿っているとされる木を切らずに建てた経験を思い出した。日本もコンゴも、神様に護られているという考えが、自分のアイデンティティを形成する大切な要素となっている。

当初、日本の大学を卒業後、コンゴに戻る予定だった。しかし、社会人経験を積まずに帰国すると、知識はあっても実践的な力が身につけていない状態になってしまおうと考え、日本に残る決断をした。「帰国することがコンゴへの貢献」と考えていたが、日本にいらながらも貢献はできるのではないかなと思うようになった。

世界は常に変化しているが、日本にいることで最新の情報を得ながら、コンゴに貢献することができる。この観点か

ら、日本に残ったことは最良の選択だったと確信している。

その後、「アフリカミーツ関西」という団体を立ち上げ、アフリカの学校支援や電力の不足している地域への電気供給のプロジェクトなどを行い、日本にいらながらアフリカへの貢献を続けている。その活動の中で、旧関西LFEC代表の弘世ふく子氏と出会い、長年にわたり支えていただいたことに深く感謝している。

現在は神戸市と協力し、「アフリカミーツ関西」の活動を行っており、その取り組みが大使就任へとつながったと考えている。

また、私は建築家としても活動しており、箱根彫刻の森美術館には「妖精たちのチャペル」という作品を展示している。機会があれば、ぜひ足を運んでご覧いただきたい。

## キューバ・フォーラム

## 中央集権型経済からの転換で再建推進



FECは1月30日、第287回国際研究会（キューバ・フォーラム）をキューバ大使館で開催した。松澤建FEC理事長の開会挨拶の後、ヒセラ・ベアトリス・ガルシア・リベラ駐日キューバ共和国大使が講演を行い、その後質疑応答が行われた。ネットワーキングの時間にはキューバのハバナで誕生したラムをベースとしたカクテルやモヒートが振る舞われた。

## 【講演概要】

キューバは人口1100万人、国土は日本の3分の1で、単一政党による社会主義体制をとる国である。経済は厳しく、2023年はマイナス成長、25年は1%成長を見込むが十分とは言えない。一方で、無償の医療・教育制度により乳幼児死亡率は低く、識字率も高い。キューバはスペインの植民地支配を受け、独立戦争を経て名目上の独立を果たしたが、実際には米国の影響下にあった。1959年のキューバ革命により社会主義国となると、米国の制裁が強化された。以降、共和党・民主党問わず対キューバ政策は一貫し、キューバを米国の影響下に置くべきとの考えが続いている。

経済の主要産業は観光業であり、美しいビーチを活かしたリゾート地が多

## 第287回国際研究会

ヒセラ・ベアトリス・ガルシア・リベラ駐日キューバ共和国大使



く存在する。農業ではサトウキビ、葉巻、コーヒー、ラム酒などが特産で、医薬品製造も盛んだ。

日本とは29年に国交を樹立し、2024年で95周年を迎えた。関係が公式に始まったのは1902年にキューバ大統領と明治天皇が親書を交わしたときである。さらに1614年、支倉常長がスペインへ向かう途中にキューバへ寄港したのが最初の交流とされる。日本政府は米国の対キューバ経済封鎖解除決議に賛成し、1960年代から開発援助を行っている。JICAは2018年に事務所を開設し、24年にはエネルギー、医療、水利のプロジェクトで支援を実施した。民間では日本キューバ友好協会が支援活動を進め、経団連主導で創設された日本キューバ経済懇話会も50周年を迎えた。

かつて日本はソ連に次ぐキューバの



第2位の貿易相手国だったが、現在は低迷している。23年、日本からの輸出は24%増加したが、キューバからの輸出は43%減少。主な輸出品はロブスター、コーヒー、ラム酒、蜂蜜で、今後は木炭、フルーツ、バイオテクノロジー製品の輸出が期待される。日本からの輸入品は医療機器が中心で、25年の大阪万博での交流拡大が期待される。

24年はキューバにとって過酷な年だった。コロナ禍やウクライナ戦争の影響に加え、米国の制裁が一層厳しくなり、テロ支援国家リスト指定が維持された。米国の制裁は第三国にも影響を及ぼし、多くの銀行がキューバとの取引を回避し、貿易決済が困難となった。さらに、ハリケーン2回、大規模地震2回が発生し、インフレにより購買力が低下、医薬品不足にも陥った。観光客減少による外貨不足も問題であ

る。また、少子高齢化が進み、生活苦から国外流出が加速し、3年間で100万人がキューバを離れた。

こうした状況の中、キューバは経済改革を推進している。再生可能エネルギー投資を拡大し、ソーラーパネル設置や火力発電所の改善を進めている。21年からは中小零細企業育成に取り組み、中央集権型経済からの転換を図る。外国投資を呼び込むため経済特区も設置し、24年にはBRICSに加盟、経済関係の多角化を進めた。日本企業の投資拡大のため、従来の売買だけでなく共同開発などにも取り組みたい。

厳しい状況下でも、キューバ人は未来に希望を持ち、経済再建を進めている。日本とキューバは異なる歴史を持つが、相互にシンパシーを感じており、今後の協力関係のさらなる発展を期待している。

## 大使館員来局



【2月3日】

ノフィキレ・ユニス・モファナ在レソト王国大使館一等書記官（右）と松澤理事長



【2月4日】

デブジャニ・チャクラバルティ在インド大使館公使（経済・商務担当）（右）と松澤理事長



## 常任理事会 2法人、1個人、1大使の入会を承認

FECは1月14日、常任理事会を開催し、渡部賢一会長、原良也常任理事、松澤建理事長、事務局役員ら6人が出席した。

開会宣言の後、定款に基づき渡部会長が議長となり、議長の指名を受けた松澤理事長が各議案について説明を行った。第1号議案「会員の入会承認の件」では、前回の常任理事会（11月12日開催）以降に入会申

し込みのあった法人2社、個人1人、駐日大使1人がそれぞれ、法人会員、個人会員、名誉会員として承認された。

続いて報告事項として、▷月次決算報告の件▷支払実施報告の件▷要人等を迎えての研究会等開催の件▷常任理事選任の件▷次回常任理事会開催期日等の件についてそれぞれ説明を行い、各報告内容が了承された。



東京

センコーグループ

TOKYO EAST SIDE HOTEL KAIE

東京イーストサイド ホテル権会 TEL.03-3699-1403  
東京都江東区潮見 2-8-11 <https://www.hotelkaie.jp>

豊洲

潮見

JR 京葉線潮見駅 東口前

舞浜

東京駅から7分。舞浜へは9分。  
観光地へのアクセス便利な好立地！

100年の歴史を  
紡ぐカクテル

1924年に誕生した帝国ホテル初のオリジナルカクテル「マウント・フジ」をご堪能ください。

帝国ホテル

## 会員紹介 株式会社REBGLO

# 地球環境に優しい蓄電池、街路灯販売

株式会社REBGLOは2020年に創業し、事業開始から6期目を迎えました。

社名のREBGLOは「リブグロ」と読み、英語の「Reboot（再起動）」と「Globalization（グローバル思想）」を掛け合わせた造語です。

この社名には、従来の発想にとらわれることなく、広い知見で再生循環ビジネスを展開したいという思いや、再起動・再構築とともに拡大・繁栄していくという企業理念を表現しています。

現在、弊社では「脱炭素」「SDGs」「BCP」をキーワードに国産EVのバッテリーを再利用した蓄電池システムや街路灯を企画・販売しています。

弊社製品はEV車に使用されている、10年以上事故がない安全で大容量なバッテリーを使用しております。資産価値のあるバッテリーを認定工場にて解体・バッテリーの再検査と調整を行うことで、更に資産価値を持たせたバッテリーにし、蓄電池ユニットを構成しています。この蓄電池ユニットは、蓄電池や街灯として製品提供を拡大中です。

蓄電池ユニットの製作には、EV車両のメーカーでバッテリーの特性を熟知した技術者がバッテリーアドバイザーとして関わり、その特性をフルに発揮できるよう企画・設計・管理しています。これまで、電池の事故（発火、爆発等）につ



いては、弊社創業以来一度も発生しておりません。

昨今、南海トラフ地震などの危機意識の高まりを受け、BCP対策を意識される企業様も増えてきております。その中で廃棄物を最小限に抑え、新規製造時のCO<sub>2</sub>排出も少ないことから、地球環境に非常にやさしい蓄電池としてご評価いただいております。

弊社の事業コンセプトは、海外諸国でも展開な地球環境貢献事業です。民間外交推進協会（FEC）との関係を通じて、取り組みや事業がさらに広がることに大いに期待しております。



REBGLO横浜ショールーム



代表取締役  
村越誠

### <会員概要>

法人名：株式会社REBGLO

代表者：村越誠

所在地：東京都千代田区丸の内2-3

郵船ビルディング2階

URL：<https://rebglo.co.jp/>



ポータブル蓄電池『ミルミルワーカー』  
アウトドアタイプ<sup>®</sup>とインテリアタイプ



オフグリッド街路灯

## 会員紹介 加藤運輸株式会社

# 物流主軸に社会貢献と事業の両立へ

### 【会社の起源と日本の歴史】

皆様初めまして、加藤運輸株式会社の加藤裕久と申します。これからどうぞよろしくお願い致します。当社は、今年で105年目を迎えることとなりました。創業時の1920年は、日本の株価が大暴落し、戦後の大恐慌でした。しかしそのころの国内では、国勢調査が開始され、大学令により、慶應義塾、早稲田大学、明治大学、同志社大学、法政大学、中央大学、日本大学が設立認可されました。スポーツでは第1回東京・箱根駅伝が開催されました。日本が新たな社会に生まれ変わり、まさに世界の仲間入りを実現する時代でした。

当社の主な仕事は物流業務なのですが、主に海外の物流に欠かせない、輸出、輸入の通関申告業務です。商社、メーカーに代わって貿易に関わる関税や消費税の計算と通関申告。それらの貨物をコンテナに積み海外に送り届ける手配が当社の役割です。会社の拠点は、大阪本社、神戸、東京、モンゴル・ウランバートルに営業事務所があります。港湾倉庫は大阪港、神戸港、横浜港、川崎港での作業を展開しております。

### 【扱い貨物の種類】

創業当時は瀬戸内海における石材、木材などの部材の輸送を主に取り扱っておりました。またロシアからも落綿のコツ



トンリターパルプの輸送もありました。

日本の産業が発達するにつれて、扱われる品も変化し、繊維、電気機械、塗料材料、樹脂、食品添加物等の化学品の製品が増えました。また化学品には危険物に指定される品物も多くなり、今では危険物の取り扱いが主な柱となります。危険物は火薬類、高圧ガス、引火性液体類、可燃性物質類などがあげられます。これらの輸出入時にはコンテナ船を利用しますが、輸出入時の手続きや、さまざまな検査と書類審査に合格することが求められます。

ロシア/ウクライナ戦争を境に、日本ではこの種の危険品の輸入が増えてきているように思います。半導体工場の建設も急ピッチで、北は北海道から南は九州まで、全国8カ所くらいで半導体の生産が始まるそうです。これらの工場では常に危険品輸送とそれらの保管が必要となります。当社はこれら危険品輸送において、社会貢献と事業の両立ができるよう努めていきたいと考えております。またモンゴル・ウランバートル市へ日本の食材の輸送や、鉱物などの輸送も行っていま



代表取締役社長  
加藤裕久

### <会員概要>

法人名：加藤運輸株式会社

代表者：代表取締役社長 加藤裕久

所在地：大阪府中央区南本町4丁目1番8号

アルテビル南本町6階

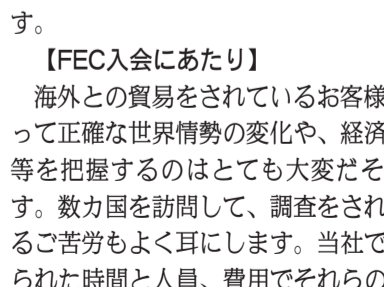
URL：<https://www.kato-unyu.com>



バンニング風景



タンクコンテナ



ガスシリンダー

す。

### 【FEC入会にあたり】

海外との貿易をされているお客様にとって正確な世界情勢の変化や、経済動向等を把握するのはとても大変だそうですね。数カ国を訪問して、調査をされているご苦労もよく耳にします。当社でも限られた時間と人員、費用でそれらの情報を入手するのは容易ではありません。しかしこの度、幸運にもFECに入会のお誘いをいただき、またその組織理念に感銘を受けました。なによりも世界情勢や文化、経済に関する生の情報が速やかに

吸収できるので大助かりです。頻繁に開催されるセミナーに社員が参加することで、身近に生涯学習としても学ぶことが可能です。これからも皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 論点 日米関係 世界安定に向けて第一歩

種々懸念された2月の石破首相の訪米が成功裡に終わった。誠に喜ばしい。

今回の訪米の最大のポイントは、石破首相とトランプ大統領との間に良好な個人的な関係を築くことであった。トランプ大統領の第1期政権での経験から考えて、そのことの重要性は明らかであった。そして、首脳会談後の記者会見等での両首脳の発言ぶりからも、両首脳の関係が良好なスタートを切ったことは明らかである。この成功を実現するために大勢の人々の努力が重ねられたことも報せられた。関係された方々に敬意と祝意を表したい。

その後のトランプ大統領と他国首脳との接触状況を見てみると、態様は一様ではない。石破・トランプ関係は安倍元首相の流れを汲む一つのパターンのモデルケースになったように感じる。日本は、この実績を十分に生かして、トランプ外交に振りまわされる国際情

勢の中にあって、世界の安定と正常化に向けて果たす役割を見出して行くべきであると思う。

今回の日米首脳会談は、両首脳間の個人的関係構築が最重要課題であったので、共同声明で日米関係のために種々の事項が確認され、評価されたが、両国間の具体的な問題は特に対象にならなかった。今後、トランプ色の強い具体的な問題が提起され、それへの対応を迫られることが種々あろうが、日米関係、石破・トランプ関係を基本としつつ、世界の安定と正常化に向けて応分の役割を果たすべきであると思う。

国際関係に関しては、既に、トランプ色の強い米国の動きとして、関税問題、ウクライナ和平問題、それと関連してNATO、EU諸国と米国との関係、中東問題（特にガザの今後の問題）が国際的に強い関心と反応を生んでおり、米中関係についても余談を許さない。ウクライナ和平問題とそれに関連したNATO、

EU諸国と米国との関係は、第二次世界大戦後80年にわたって築かれてきた西側社会の基本にかかわる問題であり、その影響は少なくない。

当面、国際関係でトランプ色の強い動きとして上記の諸問題が既に表面化しているが、日本の立ち位置、役割から考えると、今後更に、インド太平洋地域の今後のあり方、中国、台湾、韓国、北朝鮮という地域の問題について、トランプ政権をどのように取り込んでいくかが大切である。関税の問題も、世界経済更には世界平和にとっての重要性についての歴史の教訓を想起すべきである。そして、以上を通じて、トランプ政権と取り組む基本姿勢として、前号の本欄でも論じたように「米国第一」の基本をなす米国経済、特に製造業再建への協力姿勢が大切である。

(理事・湯下博之)

2月14日付

### FEC 活動日誌

#### 3月と4月初旬の催しのご案内

◆3月4日(火) 14時~16時

第289回国際研究会

講師：兼原信克笹川平和財団常務理事

テーマ：激動の国際情勢と日本

会場：オンライン

◆5日(水) 14時30分~16時30分

第288回国際研究会

内容：ルワンダ・文化フォーラム

会場：ルワンダ大使館

◆9日(日)~15日(土)

第15次ベトナム訪問団

訪問都市：ハノイ、ダナン、ホーチミン

訪問先：ベトナム政府の閣僚・高官、地方人民委員会の代表、在ベトナム

ム日本国大使館、在ダナンおよび

ホーチミン日本国総領事館、

現地日本商工会議所等

◆24日(月) 15時~17時

第93回アセアン研究会

講師：高橋正和JETROジャカルタ事務所所長

テーマ：最新のインドネシア経済事情(仮)

会場：オンライン

◆27日(木) 13時~15時

関西新春国際セミナー

内容：講演、アトラクション、ランチ

講師：山中俊之(株)グローバルダイナミ

クス取締役

テーマ：民間であるからこそできる外交  
一分断から協調へ(仮)

会場：ホテルオークラ神戸

◆4月4日(金) 14時~16時

第15回中央アジア・コーカサス研究会

内容：トルクメニスタン・文化フォーラム

会場：トルクメニスタン大使館

### 協会だより

【新名誉会員】



バイラモフ・アタドゥルディ氏(トルクメニスタン大使) マグトゥムグリ・トルクメニ国立大学国際関係学部

経済・法学科卒。中等教育学校教師などを経て2008年外務省入省。駐ロシア連邦トルクメニスタン領事(アストラハン)、同総領事(カザン)を歴任し、22



オヴィディウ・ラエツキ氏(ルーマニア大使) プカレスト大学にて歴史博士号および政治学博士号取得。

2002年ルーマニア下院顧問、08年上院顧問等を経て12年国会議員。ルーマニア議会にて国防・公共秩序・国家安全保障委員会副委員長、外務省欧州大西洋強靱化センター所長を歴任後、24年より駐日大使。



グスタボ・マカナキ氏(コロンビア共和国大使) 米国ピッツバーグ大学にて公共政策分析修士号取得。1999年

外務省入省。2000年より1年間、国際交流基金関西国際センター外交官・公務員専門日本語研修。駐ベネズエラ領事、在インド大使館勤務、外務省国境開発・統合局海事担当、駐中国領事等を歴任後、24年より駐日大使。

詳細、最新情報は本協会ホームページ (<https://www.fec-ais.com>) をご覧いただくか、事務局(電話03-3433-1122)にお問い合わせ下さい。いずれも定員に達し次第締め切りとさせていただきますので予めご了承下さい。

ホームセキュリティは  
**ALSOK**

ALways Security OK  
**ALSOK** 新潟総合警備保障株式会社 <https://www.ngtalsok.co.jp/>  
0120-39-2413 (年中無休 24時間受付)

医療の進歩に貢献するサクラグループ  
〈皆様をウィルスから守る!〉 〈がんの迅速診断に!〉

サクラ精機株式会社 <http://www.sakurajp.com/> サクラファインテックジャパン株式会社 <http://www.sakura-finetek.com/>  
サクラグローバルホールディング株式会社 <http://www.sakuraghc.com/> TEL.03-3270-1666

地球はつづく、  
化学でつなぐ!

**東亜合成**